

城を歩く会 3月定例会

「戦国期、西武蔵・東相模の北条氏の3名城をバスでめぐる」

関東の代表的戦国城館「滝山城」を歩く

平成28-3-15

本日の主要行程

8時00分

「新宿駅西口、明治安田生命ビル付近」集合、出発  
中央高速道八王子インター、滝山街道

9時30分～12時00分

滝山城（八王子市舟木町ほか＝専用駐車場）  
車中昼食弁当

12時40分～15時00分

八王子城（八王子市元八王子町＝専用駐車場）

15時30分～17時30分

津久井城（相模原市緑区根小屋ほか＝専用駐車場）

19時00分ころ

「新宿駅」着、解散

当面の例会スケジュール（詳細は会報を参照ください）

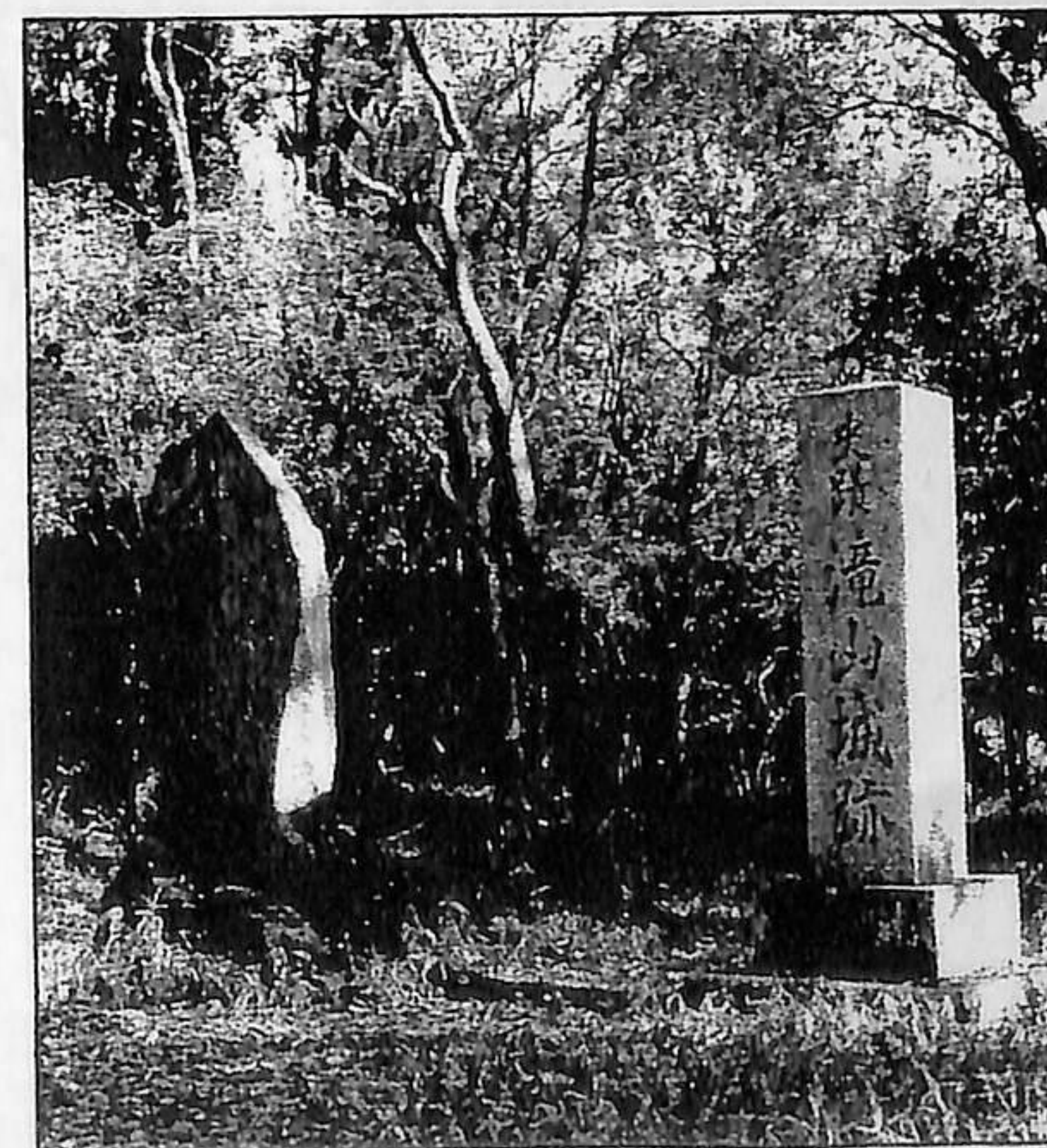
- 4月 8日（火曜日）4月例会 「佐倉の城と花見」（本佐倉城、佐倉城）
- 5月 19日（木曜日）日帰りバス「栃木県大田原周辺の城をバスで訪ねる」
- 6月 6日（月曜日）6月定例会
- 7月下旬 夏季研修会
- 8月 休会



●全体図（東京都教育委員会『東京都の中世城館』2006年より転載滝山城跡縄張図）

- ①＝本丸、②＝中の丸、③＝二の丸、  
④＝千畳敷、⑩＝無名、⑪＝3ヶ所、  
⑫～⑭ 小宮曲輪

滝山城址（東京都公園協会サジレから）



国指定の史跡、滝山城は戦国時代の中頃、大永元年（1521年）に武蔵国守護代の石定重が、この城の北西約1.5kmの高月城から移り築城したものと伝えられます。

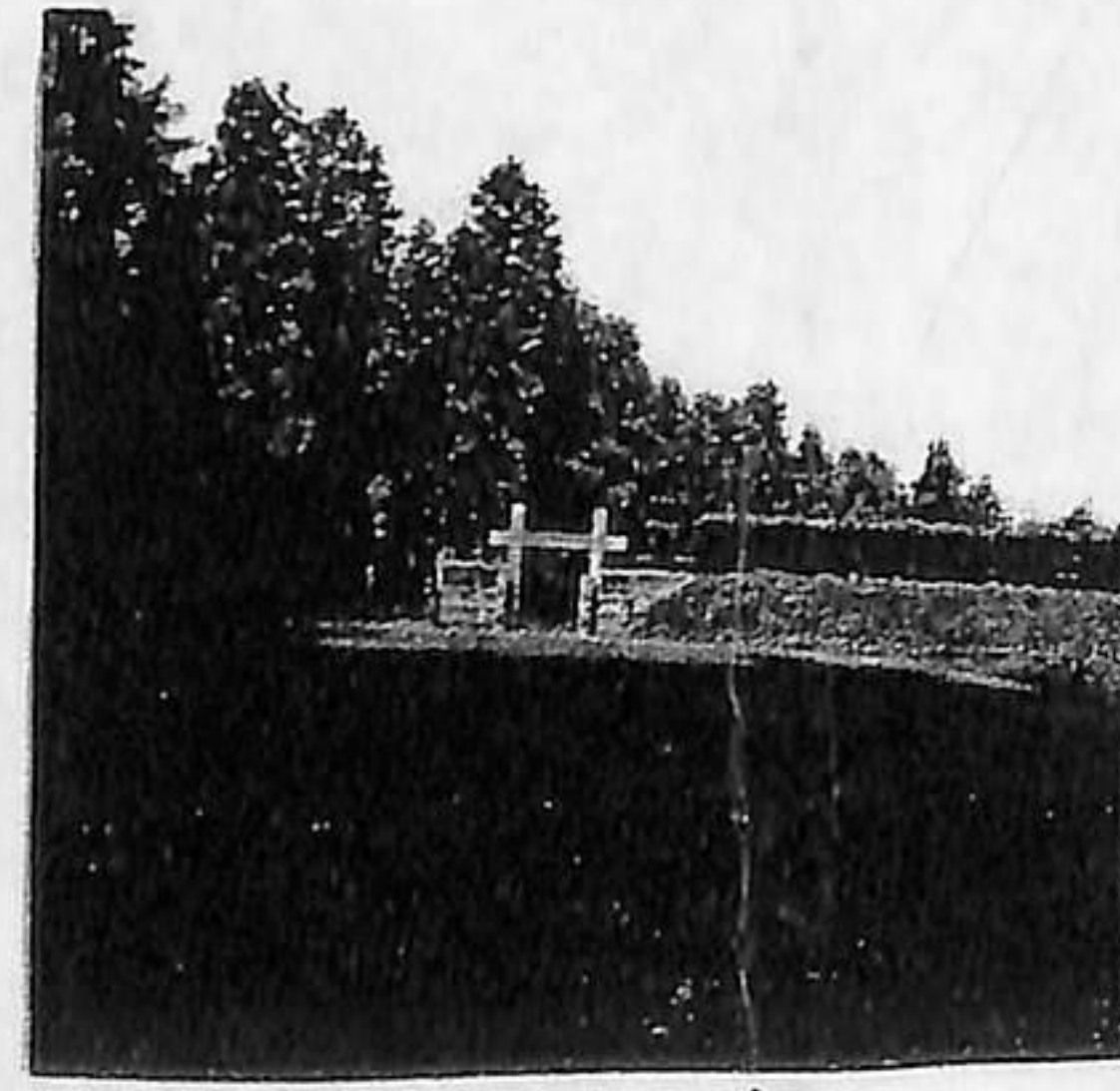
定重の子定久のとき北条氏康の支配を受け、その子氏照を養子に迎えて、滝山城は大石氏から北条氏照の居城となりました。氏照はさらに城を拡充し、その規模雄大さは当時関東屈指の山城と称されました。本丸、中の丸、二の丸、空堀などの巧みな遺構にそれがうかがえます。

上杉謙信、武田信玄などから猛攻を受けた滝山城ですが、なかでも信玄、勝頼父子による永禄12年（1569年）10月の城攻めは、熾烈を極めたといわれます。後に北条氏照は領地の備えをより固めるため、南西約9kmの地に八王子城を築き滝山城から移りました。移転の時期は定かではなく、天正の中頃（1580年代）と推測されます。

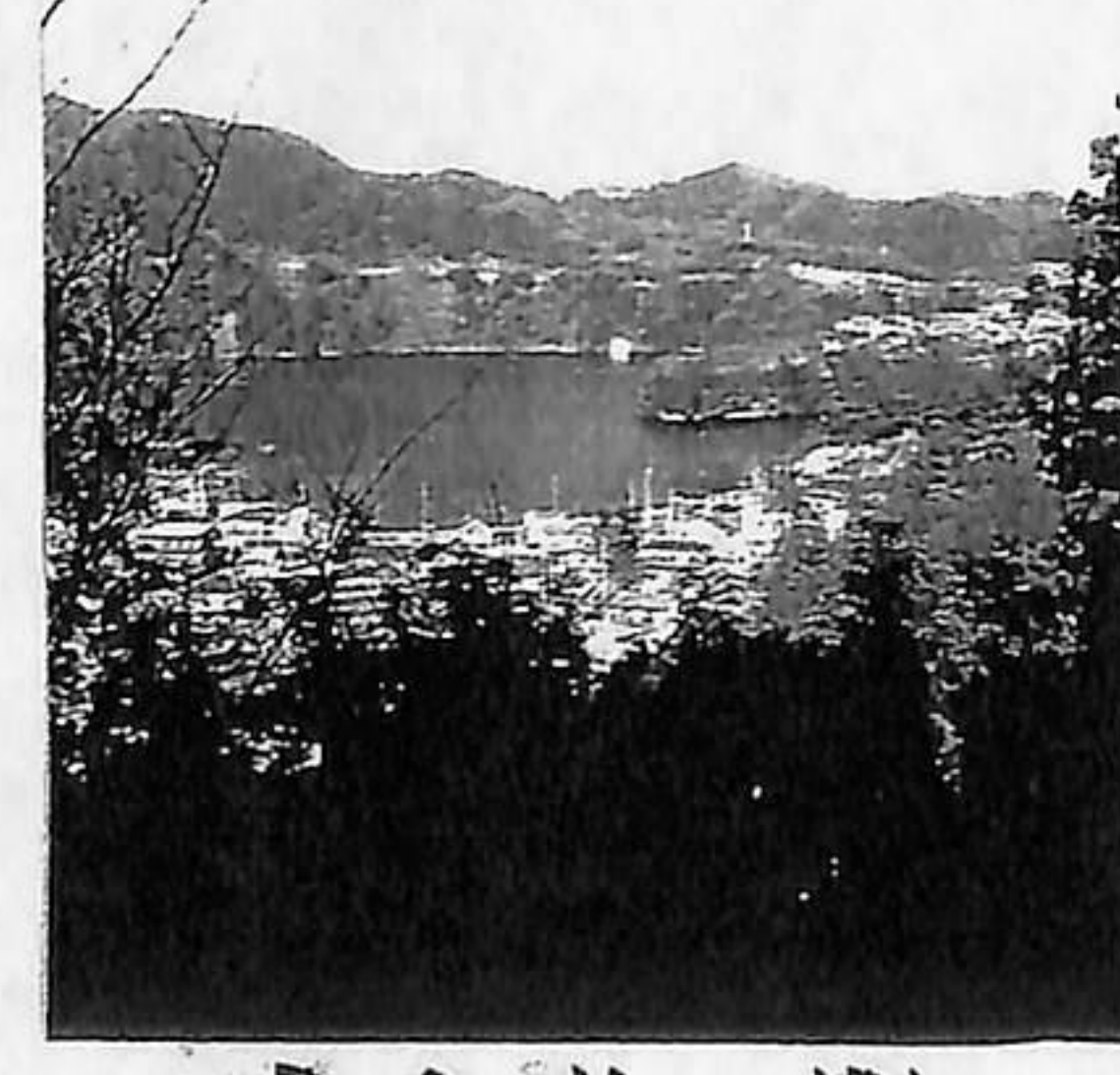
白亜の天守閣も、高い石垣もない、典型的な中世城郭の縄張りをもつ滝山城ですが、木立の深い城址にたたずむとき、かつて名城といわれた滝山城の面影がしのばれます。



滝山城



八王子城



津久井城

関東特有の典型的土の城。小田原北条氏有力支城～本日の見学3か城

滝山城（連郭式山城＝国指定史跡、都立滝山公園）戦国期永禄年間～天正年間、武蔵守護代大石氏→北条氏照居城（八王子城へ移る）

八王子城（山城＝国指定史跡）織豊期天正12年ころ～18年北条氏照居城

津久井城（山城＝津久井湖城山公園）16世紀、戦国時代内藤氏5代居城、北条氏支城



# 「多摩川河岸段丘の要害」滝山城を歩く

# 「東国戦国時代No.1の名城」～滝山城

滝山城の築城年代は未詳で、一説は永禄18年(1521)関東管領・山内上杉氏の武蔵守護代・大石氏築城とする。大石氏は15世紀後半八王子周辺に勢力を広げた土豪で、高月城(または由井城)から本拠を移したとされる。永禄元年(1558)小田原北条氏の勢力が次第に武蔵に及ぶに至り、軍門に下って氏綱の男氏照を養子に迎えた。このころ越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄が関東平野に兵をすすめたことから、小田原と上野国を結んだ滝山城が北条氏の重要拠点城となった。氏照は多摩地方の支城を従えて自ら北関東への侵攻を繰り返したが、永禄12年には武田信玄に滝山城3の丸まで攻め込まれ落城寸前まで追い込まれた。この戦いで防御態勢が不十分であることを痛感した氏照は滝山城を見限り、より堅固な八王子城へ本拠を移すことを決断することになる。

## 北条氏照の居城～遺構の保存状態がよい

### 都立滝山公園＝東京都史跡看板②解説

滝山城は相模小田原城を本拠とした戦国大名北条氏第4代当主氏政の弟氏照の居城である。縄張りのみごとさから全国有数の戦国時代の城郭として評価されている。北条氏照はこれまでに「大石系図」などにより武蔵守護代の系譜を引く大石定久の養子として滝山城に入ったとされていた。しかし近年の研究では、氏照は幼名を藤菊丸と称し、浄寺城を拠点に由井領を支配していた大石道俊(定久か)の子、大石綱周の養子になったと考えられている。滝山城の築城年代や氏照の入城時期は不明な点があるが、永禄10年までには滝山城を居城としていたとみられる。

永禄12年10月甲斐の武田信玄が小田原城攻略の途中、その道筋にあった滝山城を包圍し、押島大日堂の森に陣取った武田勢は周辺の村々を焼き払い、滝山城を裸城にしたと伝えられている。このとき氏照は、古甲州街道沿いの城下「御三口」へ兵を出し戦ったと、越後の上杉謙信に自らの書状で伝えている。その後、天正10年ごろから新城の築城工事が始められ、同15年までに滝山城から八王子城へ移っていったのである。

### 都立滝山公園＝東京都史跡看板①解説

滝山公園＝多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵に有り都立滝山自然公園の一部です。標高160mの公園の北には田園風景や多摩川の景観を望むことができます。滝山城跡＝戦国史世代の中期に建てられた滝山城は、川沿いの絶壁を利用した典型的な山城で、今も本丸、2の丸、千畳敷、空堀などの貴重な遺構があります。滝山城は昭和26年に国の史跡に指定されました。



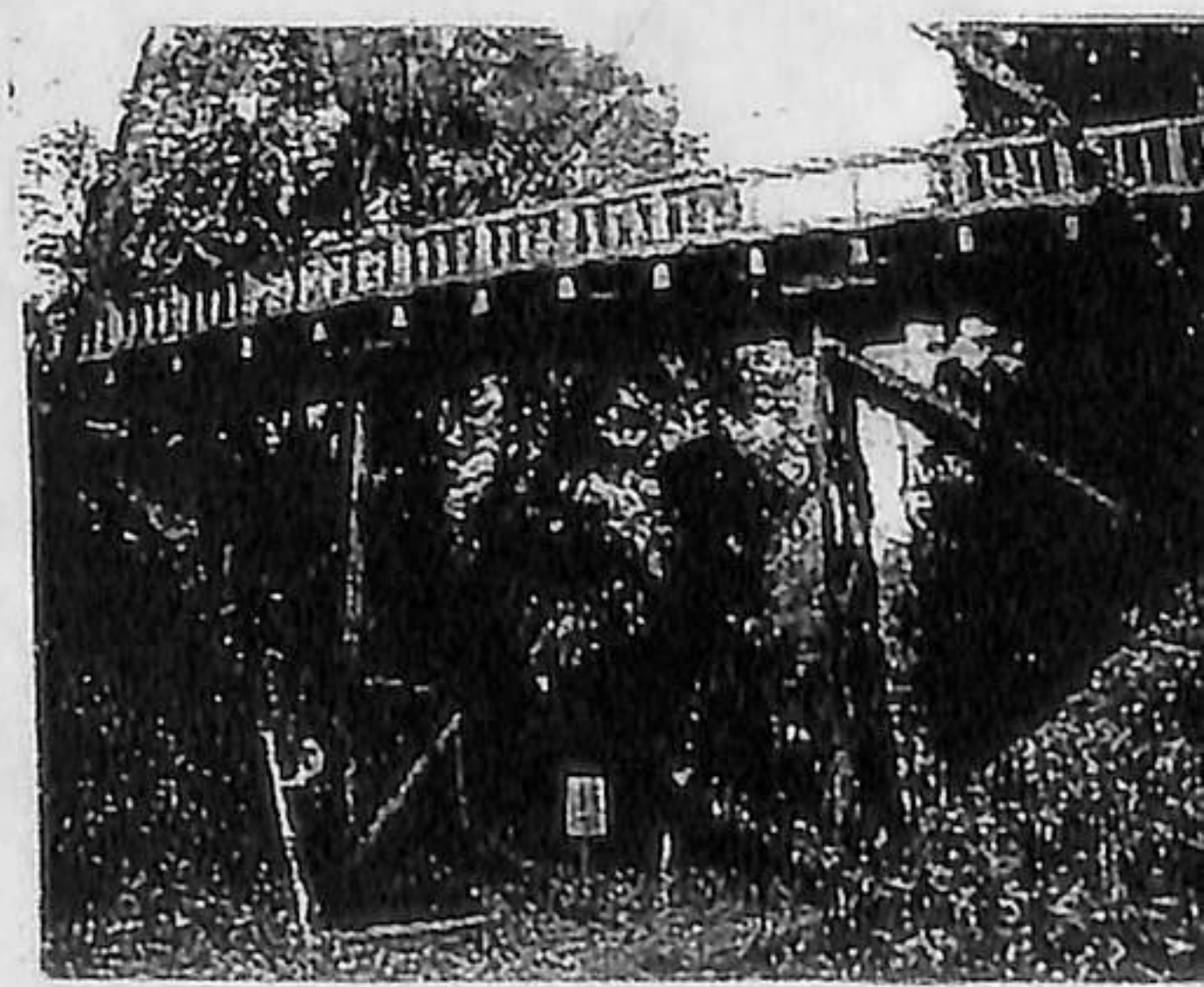
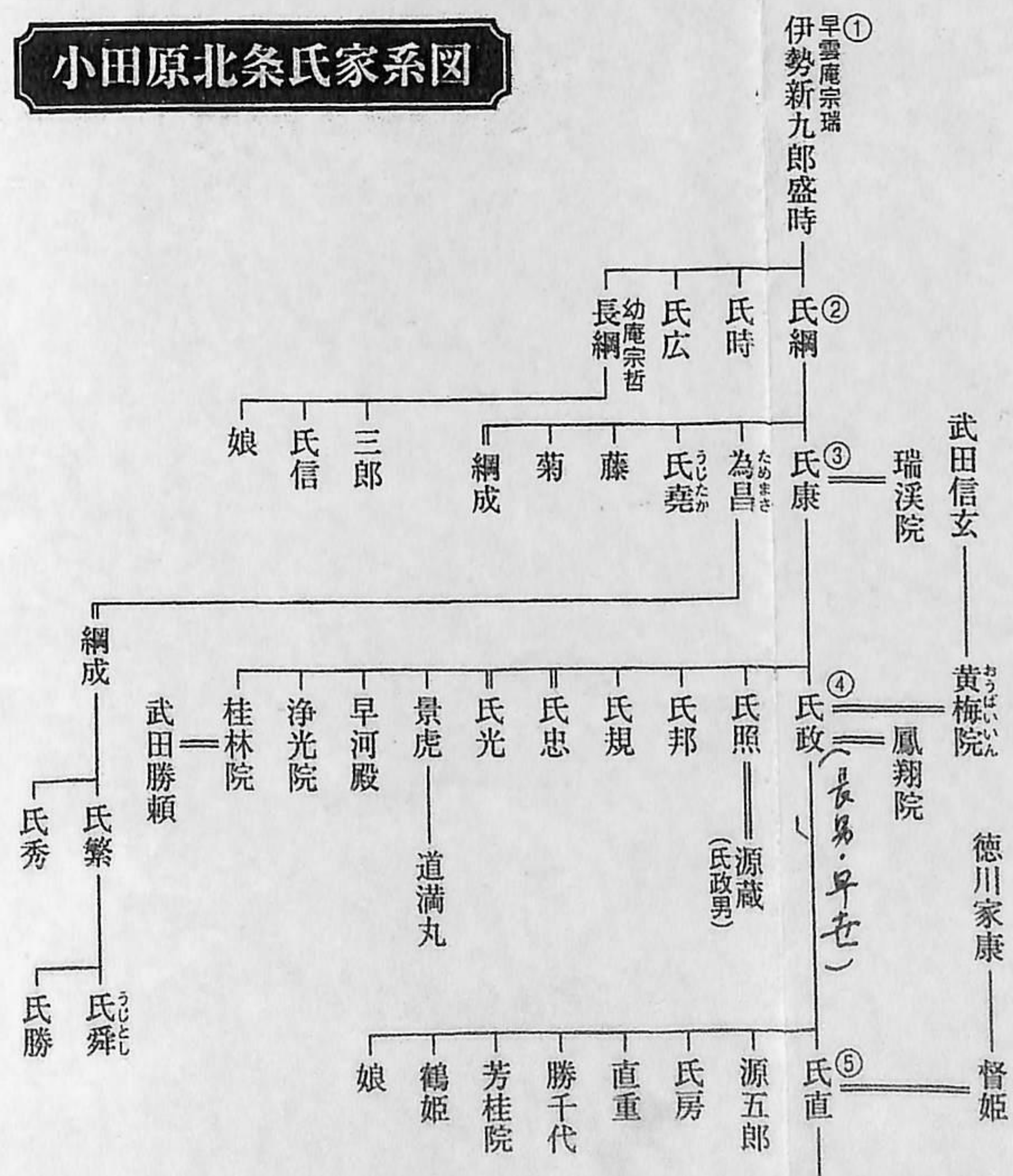
## 1) 滝山城観光駐車場から大手口天野坂へ

- ①新宿から中央高速道を八王子インターで降り、八王子市内丹木町の滝山城までおよそ90分、武蔵野平野を流れる多摩川河岸段丘、鎌倉街道、旧甲州街道要衝の地に滝山城がある。まだまだ市街地の専用駐車場で降車。ま裏に滝山城がある。
- ②天野坂大手口  
駐車場から徒歩2、3分、「滝山城入口」と表示された狭い登り道が大手口と考えられている。一方、やや下流の鍛冶谷戸コース、専国谷戸コースを大手口とする説もある。
- ③竪堀堀底道から城内へ。元は一間幅程度、右手台地から横矢が入る。最初のコーナーは木戸跡か、隣接する高台は櫓台跡といえる。  
\*天野坂から枡形虎口へ(前段)＝東京都史跡看板解説  
大手口と思われる天野坂からの堀底道は、城兵が効果的に攻撃ができるように工夫されている。

## 2) 思わず息をのむ大空堀～城を取り囲む二重土塁

- ①大手小宮曲輪大空堀～巨大空堀が城を囲む  
いきなり大規模な空堀が現れる。城の外側を取り囲むように大空堀が回る。大空堀は北条氏の城によくあるが、これだけのものはそうはお目にかかれない。  
\*幅、深さとも10m余、折りひずみの少ない直線、未整備だが雄大、迫力満点だ。
- ②銃撃戦を意識した近世大空堀の典型、「東国戦国No.1」といわれる最前線の守りを実感。
- ③北条流2重土塁
- ④木橋と土橋で繋いだ馬出し櫓。厳しい横矢。
- ⑤土橋まで100mほどすすんで大手道にもどる。

## 小田原北条氏家系図





3) 道路工事で消滅した枡形虎口と最前線の小宮曲輪

①公園通路として改変された虎口

\*天野坂から枡形虎口へ(後段) = 東京都史跡看板解説

小宮曲輪と三の丸の間には枡形虎口が設けられていた。攻めのぼる敵側にとっては大変な脅威にさらされる場所で、侵入するのが難しかったと思われる。

②小宮曲輪=複数段の細長い曲輪、重臣邸群とされるが緊急時は最前線の外郭となる。

\*小宮曲輪(重臣屋敷) = 東京都史跡看板解説

「小宮曲輪」と称されてきているので氏照の重臣の中に西多摩地域出身の重臣小宮氏が活躍していたと思われる。小宮曲輪の内部は土塁でいくつかの屋敷に区切られていた。小宮曲輪と3の丸との間には枡形虎口があったが車道により消滅した。

③小宮曲輪大空堀が3の丸枡形で右折、3の丸を迂回。3の丸の裏側に急崖の大空堀に続いている。

④3の丸枡形跡、登城道に右手3の丸から横矢

⑤左手は下り斜面で下に弁天池跡が繋がる。池名は弁天島に由来。谷戸地に堤防(土塁)を築くことで自然水を集めて巨大な水濠とした。

4) 横矢が連続するコの字型土橋と虎口を守る馬出し~千畳敷と周辺の守り

①3の丸と千畳敷、千畳敷前の無名曲輪を分ける空堀

横矢が連続するコの字型の土橋

\*コの字型土橋(強力な側面攻撃) = 東京都史跡看板解説

堀を掘る際に、一部を土のまま残し通路として使う場所を土橋という。当時はもと狭く、敵方の侵攻に対して4回も体の向きを変えて進ませ、側面攻撃ができるように工夫していた。敵の直進を防ぐための土橋であり、大変貴重な城郭遺構である。

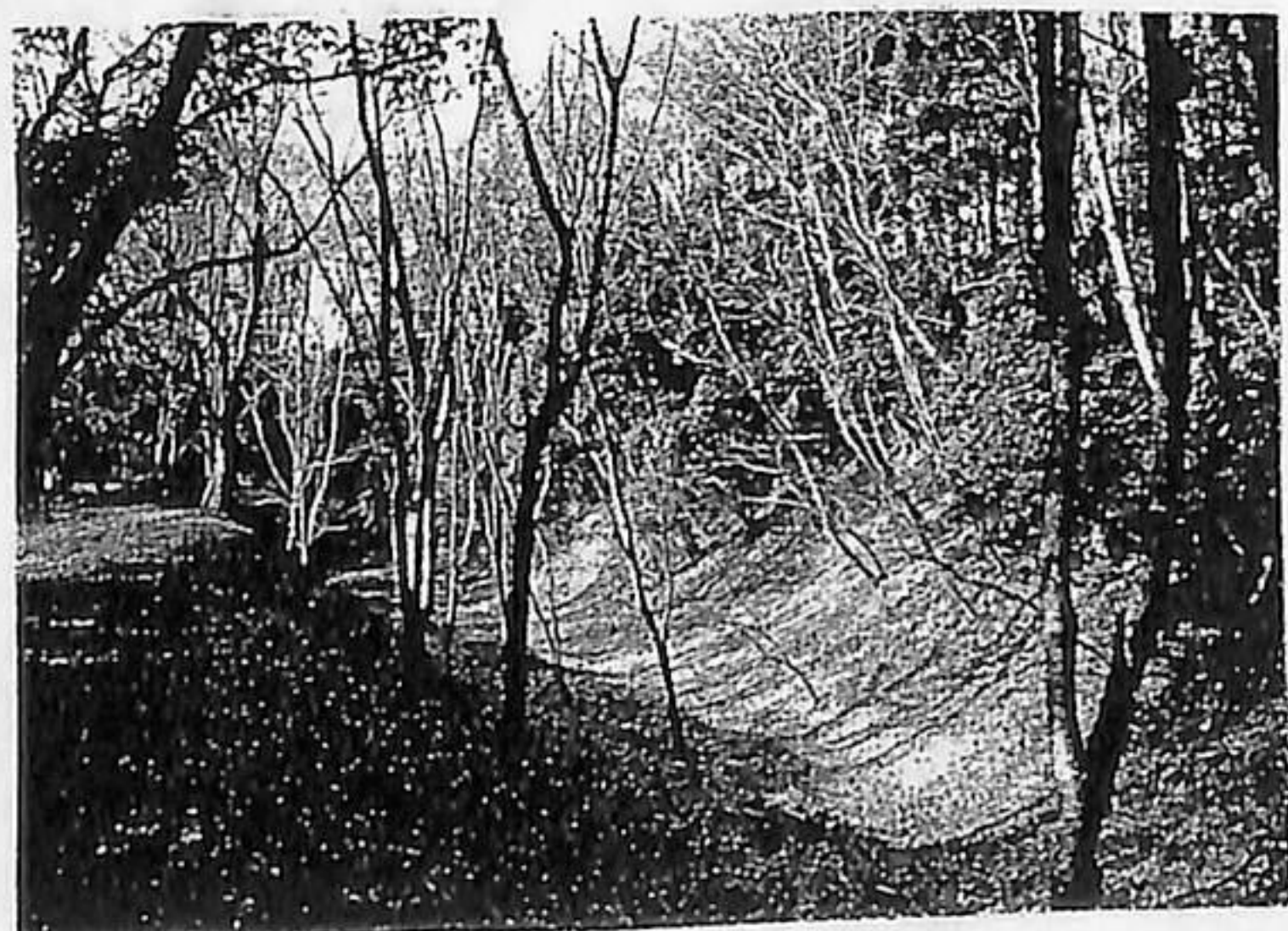
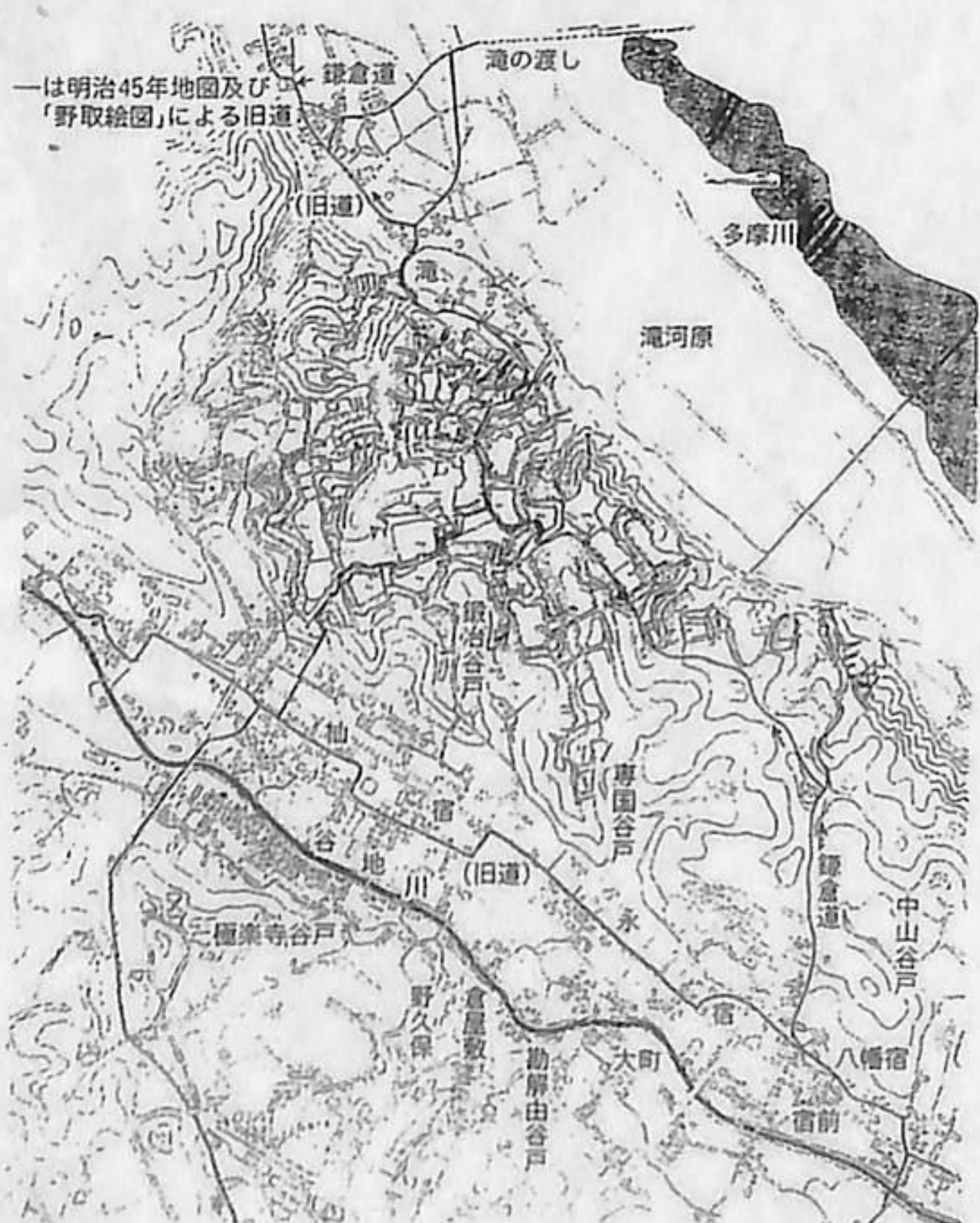
②千畳敷=文字通り畳1000帖は敷ける広さ。通常は兵の集結場をいい、2の丸の方が千畳敷にふさわしく本来3の丸といえる。

③滝山城最大の曲輪。未発掘だが大きな建造物か建てられていたか。

④2の丸側虎口に2の丸角馬出しが付属。北条流は角、武田氏は丸馬出しが知られる。

\*馬出し(少人数で守れる出入口前の防御設備) = 東京都史跡看板解説

虎口の前方に設けた空間を馬出しという。この場合は方形に作られていることから「角馬出し」と呼ばれている。馬出しがあることによって大変堅固な守りとなり、守備する城兵の出撃も容易である。2の丸の3か所の出入口には馬出しがそれぞれに設けられている。



2の丸空堀



5) 鎌倉道、古甲州道が通る防御の要め~2の丸堀底道を大空堀まで進む

①2の丸は尾根伝いに繋がった古鎌倉道が通過する防御の要めにあたる。

②北側を中の丸に接するが、前面の3方に虎口を開いてそれぞれ想定される攻撃ルートに向けている。きょうの大手小宮曲輪コースのほか、鎌倉道、古甲州道とされる鍛冶谷戸、専国谷戸、寺谷戸から通ずる南、東2ルートもこの2の丸で合流する。

③3方の虎口は土塁枡形で、前面に壮大な大空堀を回し、角馬出しを構えている。また、高台に設けた櫓から横矢は強力で、堀底道を攻め上る敵兵には大変な脅威であったと考えられる。

④2の丸の真ん中堀底道を通り抜け、東馬出しの大空堀まで進んで戻る。

6) 外堀の多摩川を遠望~滝山公園の中心地中の丸で小休止

①中の丸は本丸に次ぐ曲輪で、本丸とともに多摩川河岸段丘の最先端に立地している。通常なら2の丸と称すべきだろう。都立滝山公園の中心地で史跡看板やトイレが設置されている。4月は「桜まつり」で賑わう。小休止。

②枡形虎口。曲輪周囲を土塁が廻る。トイレ裏は広く櫓台か。深い大空堀をのぞく。

③最先端展望台から、からめて多摩川方面を一望。

\*中の丸(本丸の次に重要な曲輪) = 東京都史跡看板解説

「中の丸」の山腹には腰曲輪と呼ばれる平場が多摩川に向かって数多く設けられている。このことから北側の多摩川方面に対して警戒していたと考えられる。付近には川越道の渡河地点である「平の渡し」がある。この重要な地点を抑えるために滝山城は構築されたと考えられる。

\*中の丸南側の防御(櫓門の推定) = 東京都史跡看板解説

中の丸の南側は二方向から攻め寄せられ敵が合流できる場所だった。この場所には木橋の前面を守る防御設備が必要である。土塁の残り方から考えて櫓門があったのではないかと推定される。

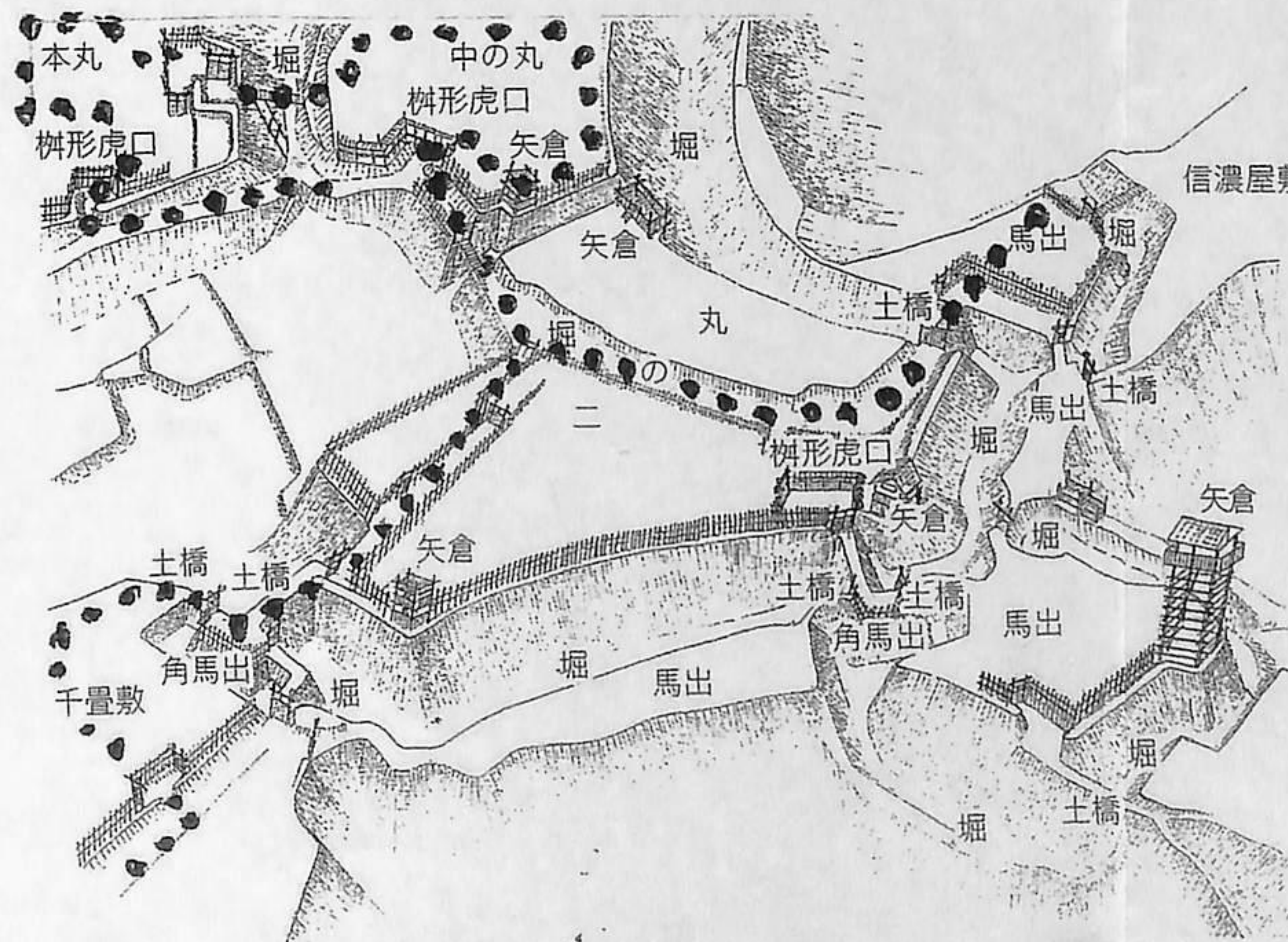
7) 鉄壁の河岸段丘の守り~石畳の枡形門から本丸へ

①シンボルの「引き橋」を渡って滝山城の本丸・本丸へ。

橋台、木橋、枡形

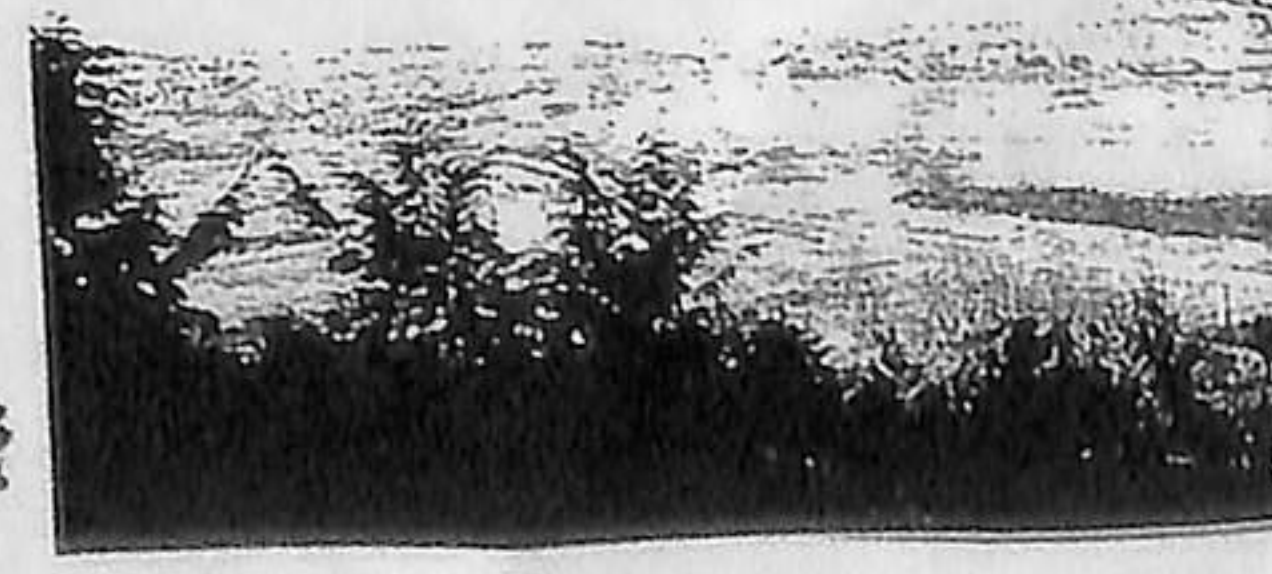
\*園施設として観光用再興。引き橋、はね橋などが考えられる。引き橋は緊急時に内側に引き上げ、はね橋ははね上げる。通常の橋は破断して敵兵の侵入を阻む。

②本丸枡形虎口(発掘調査済み)



中の丸

中の丸の眺め





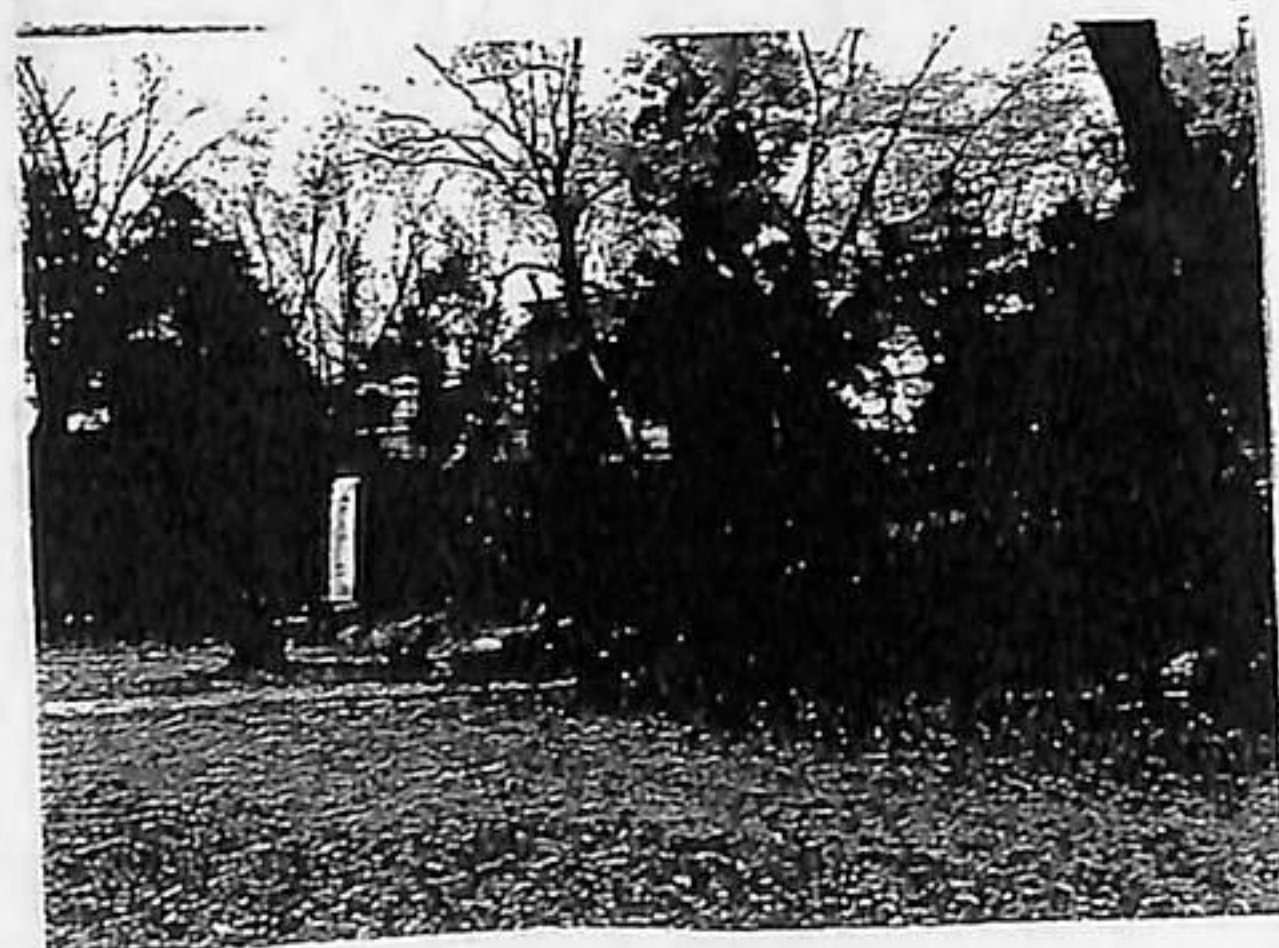
2mほどの土塁で囲まれた枡形、床面は大きめの河原石を敷き詰め、両側に排水用側溝、一部は暗渠になっていた。河原石ではなく割石を使用した八王子城と技術面での比較ができる。

\*国指定滝山城(本丸)枡形虎口=東京都史跡看板解説

この場所は中の丸から引橋を渡って本丸に入る虎口という部分にあたります。虎口は防御と攻撃の両方の機能を備えたもので、中世末において発達したのですが、滝山城の虎口は周囲を土塁で方形に囲った枡形虎口と呼ばれるもので、北条流の城郭の特徴の一つといわれています。

滝山城は都立公園として整備されていますが、東京都では平成8年枡形虎口の発掘調査を行いました。調査は都、市教育委員会の指導の下で行われ、現在は元通りに埋め戻してあります。調査の結果、現在の地表から深さ約1.6mのところ、30~60cmの扁平な川原石を敷きつめた道路が発見されました。(図面、写真表示)

- ③本丸は上下2段になっている。下段を土塁が取り巻く。
- ④枡形虎口近くの土塁上に滝山城址の碑
- ⑤反対側土塁に櫓台、物見櫓跡か
- ⑥下段は城主居住区で主殿があったと考えられるが未発掘のため未詳。井戸跡が残る。
- ⑦現在霞神社のある上段には土塁がなく城内最高地の平地。ここも未発掘。  
腰曲輪間に敵兵の横移動を封ずる堅堀、谷を挟んだ向かい山は外郭の山の神曲輪。
- ⑧本丸上段先端から再び外堀の多摩川と昭島市街を遠望、かつての多摩川は流量も多く、時々川道変わった。
- ⑨急ガケ多摩川河岸段丘鉄壁の守りを確認、この急斜面はよじのぼることはできない。  
やや緩斜面には腰曲輪と堅堀などの防御設備を観察する。
- ⑩本丸南側土塁枡形虎口  
右へ回ると本丸下腰曲輪、水堀、また小宮曲輪などに通ずるが、きょうは左折して中の丸、2の丸方面に戻る。
- ⑪先ほど渡った曳き橋を下から見上げる。深い堀にかかる景色は絶好の写真ポイントとして人気がある。
- ⑫かつて城内を縦断した古鎌倉道を掘り切ったもので、多摩川へりに降り、進んで高月の渡船場に出た。滝山城と高月城は交通要衝を抑えていることをわかる。
- ⑬中の丸前で往路に出る。2の丸、3の丸を逆走、大手道から駐車場へ戻る。



本丸

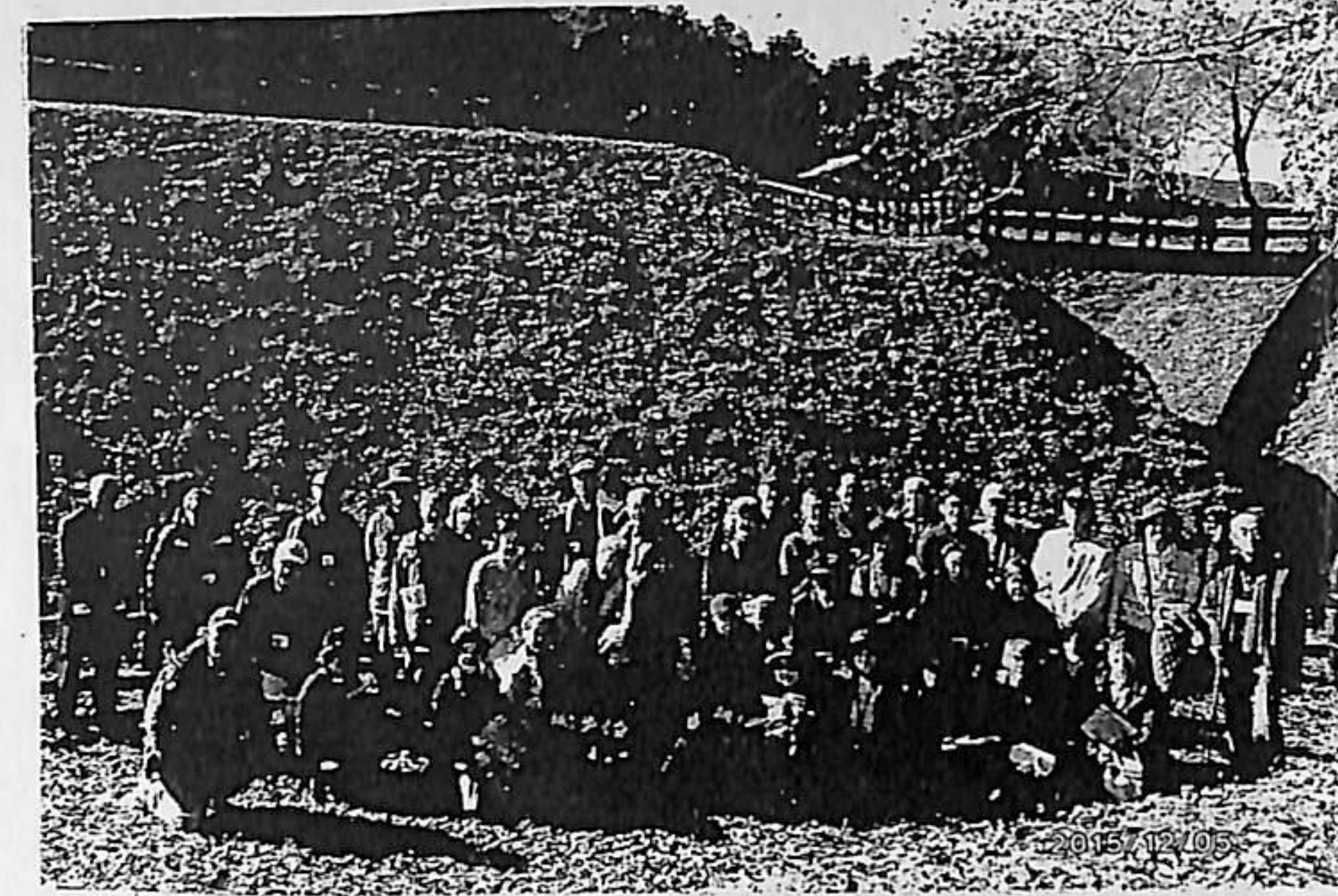


滝山城枡



本丸南側虎口

本丸枡型虎口の解説表示



12/5 ↑  
枡形虎口ほかバス  
定例会



1/23 →  
新年のつどい



2/13 ↓  
国会憲政会館  
桜田内外の変わりを歩く

